



## 魚類 *Fishes*

---

弥栄ダム周辺には、小型から大型の多様な魚類が生息しています。

川の流れが速いところを遊泳している種、川や湖の深いところを遊泳している種、川底を遊泳する種、川岸や湖岸の植生帯を利用している種などがあります。また淡水魚は、一生を河川や湖で過ごす種、川と海域を行き来する種にわけられ、水域を移動しながら生息しています。

ここでは、弥栄ダム周辺でみられる代表的な26種を紹介します。

# ニホンウナギ

*Anguilla japonica*



## ■ 分類

ウナギ目ウナギ科

## ■ 重要種指定

絶滅危惧 I B類【環境省】

## 特 徴

成魚の全長は約100cm。

細長い体で、腹は淡い白色、背は暗い灰色です。

水生昆虫類や小型の魚類、貝類、エビ類、カエル類などを食べます。冬は泥の中にもぐっています。

食用として人気が高く、蒲焼きや白焼きにして食べられています。

## 生息場所

河川では河口域から上流域まで幅広くみられ、湖や内湾にも生息します。

弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺でみられます。

## 繁 殖

国内では産卵せず、海外の遠い海で産卵します。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
出現時期													石垣や土手の穴、泥の中

# コイ *Cyprinus carpio*



- 分類  
コイ目コイ科
- 重要種指定  
指定なし

## 特 徴

成魚の全長は約60cm。  
体色は、腹面が白っぽく、背面は淡い黄色です。口元に2対4本のひげがあります。  
雑食性で、貝類やミミズ、水草などを食べます。  
食用魚で、洗い、鯉こく、丸揚げ(あんかけ)、甘露煮などにして食べます。また品種改良されたもの（ニシキゴイ）が観賞用として親しまれています。

## 生息場所

河川の中～下流域、汽水域、湖沼の流れのゆるやかなところに生息します。  
弥栄ダム周辺ではダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺でみられます。

## 繁 殖

産卵期は4～7月。  
浅い池の岸や河岸などの水草が多く生えているところに産卵します。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													浅い池の岸や水の流れのゆるい 河岸の水草
出現時期													流れのゆるやかなところ

## フナ類 *Carassius sp.*



- 分類  
コイ目コイ科
- 重要種指定  
指定なし

### 特 徴

成魚の全長は約25cm。  
体色はにごった黄緑色で、全体的に銀色の光沢があります。コイに似ていますが、本種には口ヒゲがないことなどで区別できます。  
雑食性で、おもにユスリカなどの底生動物や藻類を食べます。  
昔から釣りの対象とされてきており、民謡などでもフナを釣る様子が謡われています。

### 生息場所

河川の中～下流域、汽水域、湖沼の流れのゆるやかなところに生息します。  
弥栄ダム周辺では、弥栄湖およびその周辺でみられます。

### 繁 殖

産卵期は4～6月。  
岸辺の水草や枯れ草などに産卵します。

### 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													岸辺の水草や枯れ草
出現時期													流れのゆるやかなところ

# ワタカ *Ischikauia steenackeri*



## ■ 分類

コイ目コイ科

## ■ 重要種指定

絶滅危惧 I A類【環境省】

※弥栄ダムの個体は移入種

## 特 徴

成魚の全長は約30cm。

やや細長い体で、体色は淡い銀色。背部はやや緑がかったみえます。小さい頭のわりに大きな目をしており、口は上向きで小さく、口ひげはありません。尾びれは鋭く切れ込んでいます。

雑食性ですが、おもに水草を食べます。そのため、「ウマウオ(馬魚)」と呼ぶ地方もあります。

## 生息場所

河川下流域のワンドや流れがほとんどない水路に生息します。本来の生息地は琵琶湖淀川水系ですが、琵琶湖産稚アユの放流にまぎれて移入され、各地で定着しています。

弥栄ダム周辺では、弥栄湖およびその周辺でみられます。

## 繁 殖

産卵期は6~8月。

雨の上がったの夕方、岸辺の水草に産卵します。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													湖岸の浅場や水田
出現時期													流れのゆるやかなところ

# ハス *Opsariichthys uncirostris uncirostris*



## ■ 分類

コイ目コイ科

## ■ 重要種指定

絶滅危惧 II 類【環境省】

※弥栄ダムの個体は移入種

## 特 徴

成魚の全長は約30cm。

細長い体で、体色は淡い銀色。背部はやや青くみえます。

魚食性で、他の魚をおそって食べる性質があります。

オイカワと似ていますが、ハスは口が「へ」の字型になっていることで区別できます。捕らえた魚を逃さないためにこのような口の形に進化したものと考えられています。

## 生息場所

大きな遊水池、弥栄湖、湖沼と連なった河川、または流域の広い河川に生息します。本来の生息地は琵琶湖淀川水系ですが、琵琶湖産稚アユの放流にまぎれて移入され、各地で定着しています。

弥栄ダム周辺では、弥栄湖およびその周辺でみられます。

## 繁 殖

産卵期は5~8月。

水深の浅い砂れき底や砂底に産卵します。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期						■	■	■					流れのゆるやかな砂または砂れき底
出現時期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	流域の広い河川

# オイカワ *Zacco platypus*



- 分類  
コイ目コイ科
- 重要種指定  
指定なし

## 特 徴

成魚の全長は約15cm。白みのある銀色の体で、赤みをおびた7~10個の横じま（魚のしまは頭を上にしてぶら下げた状態で見るため、泳いでいる姿勢で縦に見えるものは横と呼びます）があります。オスは繁殖期になると、体が鮮やかな赤や青緑色（婚姻色）になり、口の周りや尻びれなどに白いぶつぶつ（追星【おいぼし】）がみられます。

雑食性で、水面に落下した昆虫や小型の水生動物、石の表面についた付着藻類を食べます。冬は「寒バヤ」として親しまれ、から揚げや塩焼きにされます。

## 生息場所

河川の中～下流域および湖沼に広く生息します。  
弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、長谷川でみられます。

## 繁 殖

産卵期は5~8月。  
岸に近い流れがゆるやかな水域の砂れき底で産卵します。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													流れのゆるやかな場所
出現時期													河川の広い範囲

# カワムツ *Nipponocypris temminckii*



- 分類  
コイ目コイ科
- 重要種指定  
指定なし

## 特 徴

成魚の全長は約15cm。

細長い体で、背部は黄土色、腹部は白っぽく、体の横に黒く幅広い横じまが一本あります。オスは繁殖期になると、頭と腹が朱色、背びれや胸びれの縁がオレンジ色になります。また、口の周りなどに白いぶつぶつ(追星 [おいぼし] )がみられます。

雑食性で、水面に落下した昆虫や小型の水生動物、石の表面についた付着藻類を食べます。

繁殖期のオスは体色が鮮やかなので、アカムツと呼ばれることもあります。

## 生息場所

河川の中流域および湖沼の流れのゆるやかなところに広く生息します。

弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、長谷川でみられます。

## 繁殖

産卵期は5~8月。

流れのゆるい岸よりの砂れき底で産卵します。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													流れがゆるく浅い場所
出現時期													流れのゆるやかなところ

# ウグイ *Tribolodon hakonensis*



- 分類  
コイ目コイ科
- 重要種指定  
指定なし

## 特 徴

成魚の全長は約30cm。  
白みのある銀色の体で、背部は黒ずんでいます。  
オス、メスともに、繁殖期には三列の赤い縦じま（魚のしまは頭を上にしてぶら下げた状態で見るため、泳いでいる姿勢で横に見えるものは縦と呼びます）ができ、全身に白いぶつぶつ（追星【おいぼし】）がみられます。  
雑食性で、付着藻類のほか、水面に落下した昆虫や水生動物、魚卵を食べます。  
冬から春にかけて美味で、食用にされます。  
広島県では「イダ」と呼ばれることが多いようです。

## 生息場所

河川の河口域から上流域、湖沼などに広く生息します。  
弥栄ダム周辺では、弥栄湖およびその周辺、長谷川でみられます。

## 繁殖

産卵期は4～5月。  
比較的流れのゆるやかな水域に数百尾が集まって産卵します。場所は毎年ほぼ決まっており、降雨後の増水で洗われ、やや石の浮いた砂れき底を好みます。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所	
産卵期				4～5月									流れのゆるやかな水域	
出現時期	4～12月													河川の広い範囲

# ムギツク *Pungtungia herzi*



- 分類  
コイ目コイ科
- 重要種指定  
指定なし

## 特 徴

成魚の全長は約15cm。  
細長い体で、口が少しとがり、1対の口ひげがあります。眼から尾びれにかけて、太く黒い帯状の模様があります。  
動物にかたよった雑食性で、水生昆虫などを食べます。  
他の魚が守っている卵の上に群れで産卵を行い、自分たちの卵をその魚に守らせる習性(托卵 [たくさん])が知られています。托卵相手はオニヤラミなどが確認されています。

## 生息場所

河川の中～下流域の流れのゆるやかな淵やよどみに生息します。  
弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺でみられます。

## 繁 殖

産卵期は5～6月です。  
大きな石の下面、岩盤の割れ目、水草、水面の浮遊木などに産卵します。オニヤラミ、ドンコなど、卵を守る肉食魚に托卵（たくさん）する習性があります。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期						■							岩盤の割れ目、水草、浮遊木
出現時期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	流れのゆるやかなところ

# カマツカ *Pseudogobio esocinus esocinus*



- 分類  
コイ目コイ科
- 重要種指定  
指定なし

## 特 徴

成魚の全長は約20cm。  
腹面が平らな体形をしています。2本のひげがある口はやや下向きに開き、前へ長く伸ばすことができます。背部には黒い模様があります。  
雑食性で、おもに小型の底生動物を食べます。  
警戒心が強く、驚くとすぐに砂へ潜る習性があります。

## 生息場所

河川の中～下流域の流れのゆるやかな淵やよどみの砂底に生息します。  
弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、長谷川でみられます。

## 繁 殖

産卵期は5～6月。  
水深が浅く、流れのゆるやかな砂れき底に産卵します。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期						■							浅く流れのゆるやかなところ
出現時期	■												流れのゆるやかな砂底

# コウライニゴイ *Hemibarbus labeo*



- 分類  
コイ目コイ科
- 重要種指定  
指定なし

## 特 徴

成魚の全長は約50cm。  
細長い体型で、2本の口ひげがあり、口は下向きに開きます。体色は全体的に明るい灰色で、ひれは薄いオレンジ色です。  
雑食性で、水生昆虫、貝類などの底生動物。石の表面についた付着藻類などを食べます。

## 生 息 場 所

比較的大きな河川の中～下流域、汽水域の流れのゆるやかな淵やよどみに生息します。  
弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、長谷川でみられます。

## 繁 殖

産卵期は6～7月。  
河岸の砂れき底の浅場で、数尾が群れて産卵します。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期							■	■					河岸の砂れき底の浅場
出現時期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	流れのゆるやかなところ

# コウライモロコ *Squalidus chankaensis* subsp.



## ■ 分類

コイ目コイ科

## ■ 重要種指定

指定なし

## 特 徴

成魚の全長は約15cm。

細長い体で、口には2本の口ひげがあります。体色は全体的に光沢のある銀色で、表面には黒点があります。

雑食性で、ミジンコや底生動物、巻貝、石の表面についた付着藻類などを食べます。  
よく似た種類にスゴモロコがいます。

## 生息場所

比較的大きな河川の中～下流域の流れのゆるやかな淵やよどみに生息します。

弥栄ダム周辺では、弥栄湖およびその周辺、長谷川でみられます。

## 繁 殖

産卵期は5～7月。

砂泥底に産卵するとされていますが、はっきりとはわかつていません。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													砂泥底？
出現時期													流れのゆるやかなところ

# ギギ *Pseudobagrus nudiceps*



## ■ 分類

ナマズ目ギギ科

## ■ 重要種指定

指定なし

## 特 徴

成魚の全長は約30cm。

頭が大きく平らで、ウロコはありません。8本の口ヒゲがあります。正面から見ると猫のような愛きょうのある顔です。体色はおもに黒っぽい緑色ですが、濃淡や模様は個体により異なります。また弱ってくると、色が薄茶色になります。

雑食性で、おもに水生昆虫、エビ、小魚を食べます。

ギギの和名は、胸びれを用いて「ギー、ギー」という音を発することに由来しています。

## 生息場所

河川の中～下流域、湖沼の流れのゆるやかな淵に生息します。

弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、長谷川でみられます。

## 繁殖

産卵期は5～8月。

石の下のすき間や、水草の根元などに産卵します。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期					■	■	■	■					石下のすき間や、水草の根元
出現時期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	流れのゆるやかなところ

# ナマズ *Silurus asotus*



## ■ 分類

ナマズ目ナマズ科

## ■ 重要種指定

指定なし

## 特 徴

成魚の全長は約60cm。

大型で平らな頭に、幅の広い口をもっています。ウロコはありません。体色は黒色から緑がかった茶色まで個体により変化します。腹は明るい灰色です。産まれたばかりの稚魚は6本のひげがありますが、成長すると4本になります。

動物食で、魚類、甲殻類、貝類などを食べます。

ナマズの「ナマ」は「なめらか」を、「ズ」は「頭」を意味し、「皮膚がなめらかな大きな頭の魚」が名の由来です。日本ではナマズにまつわる様々な伝承があり、神の使いとして信仰する地域もあります。

## 生息場所

河川の中～下流域、湖沼の流れのゆるやかな水底に生息します。

弥栄ダム周辺では、弥栄湖およびその周辺、長谷川でみられます。

## 繁殖

産卵期は5～7月。

降雨後の夜間に、小川や水田に入り、水草、泥上などに産卵します。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													小川、池沼の藻や水草
出現時期													流れのゆるやかなところ

# アカザ *Liobagrus reinii*



## ■ 分類

ナマズ目アカザ科

## ■ 重要種指定

絶滅危惧 II 類 【環境省】

準絶滅危惧 【広島】

絶滅危惧 II 類 【山口】

## 特 徴

成魚の全長は約10cm。

頭部は平らで、尾びれの形は丸く、口ひげが8本あります。ウロコはありません。体色は名前のとおり赤色です。

動物食で、おもに水生昆虫を食べます。

アカザには「テンキリ」、「チョウキリ」などの地方名がありますが、これは背びれと胸びれにあるトゲ状のひれに刺されると、手を切るような激しい痛みを伴うことからついたとされています。

## 生息場所

河川の下流域から上流域の流れの速い水域に生息します。

弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川でみられます

## 繁殖

産卵期はおもに6月。

流れの速い水域の石の下に産卵します。卵はオスが保護します。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期						■							流れの速い水域の石の下
出現時期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	流れの速い水域

# アユ *Plecoglossus altivelis altivelis*



- 分類  
サケ目アユ科
- 重要種指定  
指定なし

## 特 徴

成魚の全長は約20cm。30cmくらいの個体（尺アユ）もみられます。体は細長く、細かいウロコがあります。背部がオリーブ色、腹部は銀色です。口は大きく、両あごが細長くやわらかい唇で縁どられています。幼魚（海域に生息）は動物食で、水生昆虫などを食べますが、成魚は植物食で、付着藻類を食べます。上下の唇を岩にこすりつけて食べるため、岩には藻類を削った「食（は）みあと」が残ります。古来より重要な食用魚として利用されており、塩焼きをタデ酢（すりおろしたヤナギタデの葉と酢と混ぜたもの）で食べるほか、揚げもの、蒸しもの、吸いもの、刺身、つくだ煮など様々な食べ方があります。

## 生息場所

おもに河川中流域の流れの速い水域に生息します。弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、長谷川でみられます。

## 繁 殖

産卵期は9～11月。比較的流速の速い砂れき底の瀬に、多数が群がって産卵します。ふ化後の仔魚は、河川の流れに沿って、海へ流下します。弥栄ダムでは、ダム湖に入る川の流入口で繁殖し、海には下りない個体（陸封型）が確認されています。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													流れの速い、砂れき底の水域
出現時期													流れのある水域

# アマゴ *Oncorhynchus masou ishikawae*



## ■ 分類

サケ目サケ科

## ■ 重要種指定

準絶滅危惧【環境省】

要注意種【広島】

絶滅危惧 I B類【山口】

## 特 徴

成魚の全長は約25cm。

体の背部は青みのある色で、小さな黒点があります。また体の横にはだ円形の大きな斑点(パーマーク)があり、淡い赤点が散らばっています。

動物食で、水生昆虫や水面に落下した昆虫などを食べます。

塩焼き、天ぷら、甘露煮、刺身などで食用にされています。

## 生息場所

年間を通じて水温が20℃以下の渓流域に生息します。流れの速いところとゆるいところが交互に連なる水域を好みます。

弥栄ダム周辺では、弥栄湖上流の小瀬川と長谷川でみられます。

## 繁 殖

産卵期は10月上旬～11月上旬。

流れが速く波が立ちはじめる所の川底（瀬頭）に、すり鉢状のへこみ（産卵床）をつくって産卵します。れき底または砂れき底を好みます。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期										■	■		岸寄りのれき底または砂れき底
出現時期													流れが速く波が立ちはじめる所の川底（瀬頭）

# オヤニラミ

*Coreoperca kawamebari*



## ■ 分類

スズキ目スズキ科

## ■ 重要種指定

絶滅危惧 I B類 【環境省】

絶滅危惧 II類 【広島】

## 特 徴

成魚の全長は約13cm。

体高が高く平たい体で、体色は緑がかった茶色です。

動物食で、小型の水生昆虫、小魚など丸飲みにできるサイズのものを食べます。

名前の由来には諸説ありますが、オスが卵を守る様子が「親がにらみを利かせている」ように見えることからつけられたとも言われています。

また、海産のメバルに似ているので「カワメバル」、眼のような斑紋をもち、左右に4つ目があるように見えることから「ヨツメ」という地方名もあります。

## 生息場所

河川の中～下流域に生息します。水がすんだ流れのゆるやかな場所を好みます。

弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、長谷川でみられます。

## 繁 繁殖

産卵期は4月下旬～9月。

川岸の流れのゆるやかな部分に生える植物に産卵します。

オスが卵を守りながら子育てをする習性があります。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期					■	■	■	■					流れのゆるやかな川岸に生える植物帯
出現時期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	流れのゆるやかなところ

# ブルーギル *Lepomis macrochirus*



## ■ 分類

スズキ目サンフィッシュ科

## ■ 重要種指定

指定なし

## 特 徴

成魚の全長は約25cm。北アメリカ原産の外来魚です。

体高が高く平たい体で、体色は淡い茶色です。黒い横じま模様（魚のしまは頭を上にしてぶら下げる状態で見るため、泳いでいる姿勢で縦に見えるものは横と呼びます）があります。

雑食性で、成長段階や季節に合わせて水生昆虫や魚、魚卵などをさまざまなものを食べます。

えらの上部にある暗い青色の斑点から、「青いえら」という意味で「ブルーギル（えらは英語で [gill (ギル) ] ）」と名前がつけられました。

繁殖力が強く、他の淡水魚の生息状況に大きな影響を与えるとして、外来生物法により「特定外来生物」に指定されています。このため、個体の移動や飼育が禁止されています。

## 生息場所

河川の下流域および湖沼の流れのゆるやかな水草付近に生息します。

弥栄ダム周辺では、弥栄湖およびその周辺でみられます

## 繁殖

産卵期は6～7月。

メスは湖沼などの岸寄りの砂泥底にすり鉢状のへこみ（産卵床）を作り、産卵します。オスは卵を守り、ふ化した後も1週間ほど保護を続けます。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期						■	■						湖沼の沿岸の砂泥底
出現時期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	流れのゆるやかなところ

# オオクチバス *Micropterus salmoides*



## ■ 分類

スズキ目サンフィッシュ科

## ■ 重要種指定

指定なし

## 特 徴

成魚の全長は30~50cm。北アメリカ原産の外来魚です。

平たい体で口が大きく、スズキに似た形をしています。体色は黄色みがかった緑色で、背部には斑点があり、体の側面には黒色の縦筋模様があります。

動物食で、魚を中心にエビやカエル類を食べます。

ルアー釣りの対象魚として広く人気がありますが、繁殖力が強く、他の淡水魚の生息状況に大きな影響を与えるとして、外来生物法により「特定外来生物」に指定されています。このため、個体の移動や飼育が禁止されています。

## 生 息 場 所

河川の下流域および湖沼の流れのゆるやかな淵やよどみに生息します。

弥栄ダム周辺では、弥栄湖およびその周辺でみられます。

## 繁 繁殖

産卵期は5~7月。

メスは流れのない場所の砂れき底に巣を作り産卵します。底が泥の場合は、木の切り株や水草の茎に産卵します。オスはふ化後約3週間ほどの間、稚魚を守ります。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													流れのない砂れき底
出現時期													流れのゆるやかなところ

# ドンコ *Odontobutis obscura*



- 分類  
スズキ目ドンコ科
- 重要種指定  
指定なし

## 特 徴

成魚の全長は約25cm。  
体はずんぐりしており、大きな頭と口をもっています。背びれは2つあり、尾びれは丸い形をしています。体色は暗い黄土色で、側面に大きな黒色の斑があります。  
動物食で、大型の水生昆虫やエビ、魚を食べます。

## 生 息 場 所

河川の中～下流域の流れのゆるやかな淵やよどみに生息します。  
弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、長谷川でみられます。

## 繁 殖

産卵期は5～7月。  
水底の石、木片などの下面や石垣の間などに、オスが口とひれで産卵のための空間（産卵室）を作り、メスを迎えてから繁殖がおこなわれます。  
オスが卵を守る習性があります。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期							■	■					水底の石、木片などの下面や石のすき間
出現時期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	流れのゆるやかな淵やよどみ

# ウキゴリ *Gymnogobius urotaenia*



## ■ 分類

スズキ目ハゼ科

## ■ 重要種指定

準絶滅危惧【広島】

## 特 徴

成魚の全長は約13cm。

体は細長く、体のわりに大きな口と胸びれをもっています。腹びれは吸盤状になっており、石に張り付くことができます。体色は淡い黄土色で、側面に黒色の斑紋があります。

雑食性で、水生昆虫や小魚、エビ類などを食べます。

ハゼの仲間で小型のものは、一般に「ゴリ」と呼ばれています。「ゴリ」は水底にじっとして動かない魚を指すと考えられており、その中でも浮いていることが多い本種は、「浮くゴリ」という意味で、「ウキゴリ」と名が付いたといわれています。

## 生息場所

河川の中流域から下流域、湖沼の流れのゆるやかな淵やよどみに生息します。

弥栄ダム周辺では、長谷川でみられます。

## 繁 殖

産卵期は1~5月。

流れのゆるやかな淵やよどみで産卵します。

稚魚はふ化とともに海や湖に流下し、成長したのち、河川を再び遡上し始めます。

弥栄ダムの個体は海まで下りずに、弥栄湖で成長していると考えられています。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期													石や板などの下面
出現時期													流れのゆるやかなところ

# ゴクラクハゼ *Rhinogobius giurinus*



## ■ 分類

スズキ目ハゼ科

## ■ 重要種指定

準絶滅危惧【広島】

## 特 徴

成魚の全長は約8cm。

小さく細長い体で、体色は淡い茶色。側面にはにじんだような黒色の模様があり、ほおには迷路のような複雑な斑紋があります。

雜食性で、小型の水生昆虫などのほか、付着藻類も食べます。

## 生息場所

河川の下流域および汽水域の流れのゆるやかな淵やよどみに生息します。

弥栄ダム周辺では、弥栄湖およびその周辺でみられます。

弥栄ダムの個体は、稚アユの放流に伴って移入されたものと考えられています。

## 繁 殖

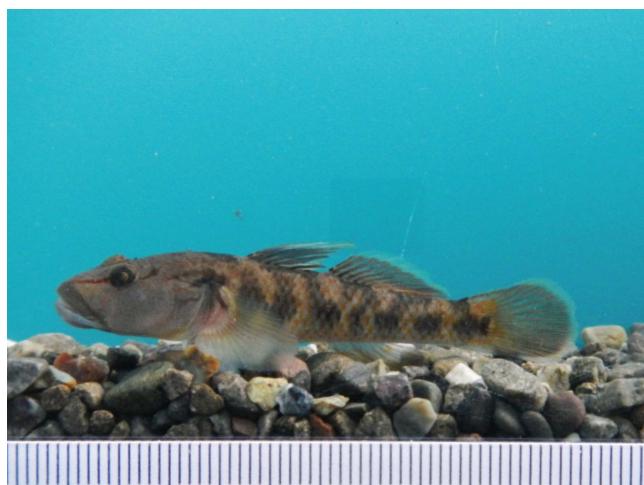
産卵期は7~10月。

砂に半分埋まった石の裏面に産卵します。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期							■	■	■				砂に半分埋まった石
出現時期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	流れのゆるやかなところ

# トウヨシノボリ *Rhinogobius* sp. OR



## ■ 分類

スズキ目ハゼ科

## ■ 重要種指定

指定なし

## 特 徴

成魚の全長は約7cm。

小さく細長い体で、腹びれは吸盤状になっています。体色は地域や個体によって差があり、変化に富んでいます。体の側面には黒色の斑が相互につながって並んでいます。

雑食性で、おもにカゲロウやトビケラなどの水生昆虫を食べます。

尾びれの付け根あたりに橙色（オレンジ色）の斑紋をもつことが「トウヨシノボリ」の名前の由来といわれていますが、不明瞭な個体もよくみられます。

## 生息場所

河川の中～下流域および湖沼とその流入河川の流れのゆるやかなところに生息します。

弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、長谷川でみられます。

## 繁 殖

産卵期は5～7月。

河川中～下流域や湖沼で、砂れき底にある石の裏面に卵を産みつけます。

オスは卵がふ化するまで卵を守ります。稚魚はふ化とともに海または湖沼へ流下します。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期						■	■						砂れき底にある石の下
出現時期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	流れのあるところから淵まで

# カワヨシノボリ *Rhinogobius flumineus*



## ■ 分類

スズキ目ハゼ科

## ■ 重要種指定

指定なし

## 特 徴

成魚の全長は約6cm。

小さく細長い体で、腹びれは吸盤状になっています。体色は暗い茶色から薄茶色まで個体差があります。体の側面には不明瞭な黒色の斑が並んでおり、胸びれの付け根には黄色い三日月型の斑紋があります。

雑食性で、石の表面についている付着藻類や小型の水生昆虫を食べます。

## 生息場所

河川の上～中流域に広く生息します。

弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、長谷川でみられます。

## 繁 殖

産卵期は5～8月。

流れのゆるやかな砂れき底の石の下に産卵します。

オスは産卵後も巣にとどまり、ふ化するまで卵を守ります。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期					■	■	■	■					砂れきに埋まった岩の下
出現時期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	流れのあるところから淵まで

# ヌマチチブ *Tridentiger brevispinis*



■ 分類  
スズキ目ハゼ科

■ 重要種指定  
指定なし

## 特 徴

成魚の全長は約15cm。  
ずんぐりした体で、丸く大きい頭があります。体色は全体的に黒に近く、頭からほおにかけて白色の斑点がまばらにあります。  
雑食性で、小魚、水生昆虫、石の表面についている付着藻類を食べます。  
日本各地で小型底引き網などで漁獲され、つくだ煮の材料になります。小型のものは卵とじや天ぷら、吸い物にされます。

## 生息場所

河川の中～下流域、汽水域、湖沼に生息します。  
弥栄ダム周辺では、ダム下流の小瀬川、弥栄湖およびその周辺、長谷川でみられます。  
弥栄ダムの個体は、稚アユの放流に伴って移入されたものと考えられています。

## 繁 殖

産卵期は4～9月。  
よどみや流れのゆるやかな場所で、石の下などに産卵します。

## 生活サイクル

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	場所
産卵期					■	■	■	■					岩の下、石のすき間
出現時期	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	■	流れのゆるやかなところ